

**10月10日『目の愛護デー』にむけて、養護教諭1018名にアンケート調査を実施
コンタクトレンズ装用者の“低年齢化”にともない、若年層のカラーコンタクトレンズ装用も拡大
学校保健現場の6割がカラーコンタクトレンズユーザーの増加に直面**

目の健康を考えた使い捨てコンタクトレンズ(以下 CL)を提供するジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー(本社:東京都千代田区、代表取締役プレジデント: デイビッド・R・スミス)は、新学期のスタートにともない、10月10日の「目の愛護デー」を前に、若年層のCL装用について、学校で保健指導を行っている養護教諭を対象としたアンケート結果を発表いたします。

今回のアンケート結果では、CL装用の低年齢化に加え、カラーCL装用の拡大など、学校保健の現場で養護教諭が直面しているCLに関わる実態が明らかになりました。

ジョンソン・エンド・ジョンソンでは、中学生・高校生とその保護者に向けて、眼の健康やCLに関する正しい知識を持っていただくため、日本学校保健会及び日本眼科医会 常任理事 宇津見義一先生の監修による啓発資料『中学生・高校生のためのコンタクトレンズガイド』を中学校・高校を通じて無料配布しています。

【養護教諭へのアンケート結果】

■ **学校保健の現場が直面するコンタクトレンズ装用者の“低年齢化” — 装用のきっかけは“見た目”と“スポーツ”【グラフ1】**

学校保健の現場で日々、児童・生徒と接している養護教諭の 87.3%が「CL装用者の低年齢化が進んでいる」と感じていることが分かりました。年代別にみると高校では81.9%、中学校では90.3%、小学校では91.7%と、年代が下がるほどCL装用者の“低年齢化”の傾向があります。

CL装用の理由として、「CLを装用している女子は“メガネの見た目”にこだわっている」と感じている養護教諭は68.2%。特に小学校では、“メガネの見た目”にこだわっていると感じる割合が76.7%と高くなっています。また、「CLを装用している男子は“スポーツ”が主な理由である」と感じている養護教諭も59.1%にのぼっており、若年層のCL装用において、“見た目”と“スポーツ”が大きなきっかけとなっていることが伺えます。

■ **トラブルの原因は「正しい知識の不足」 — 年代が上がるほど目立つ“不適切な使用”傾向【グラフ2】**

CLのトラブルの原因がどのような点にあると思うかを聞いたところ、70.1%が「CLについての正しい知識が不足」と答えています。その他、「2週間使い捨てレンズなどのケアが不十分」(43.1%)、「交換期間・時間を超えた装用」(40.5%)、「眼科で検査を受けずに購入している」(28.3%)など、CLの不適切な使用が、トラブルの原因となっていることが伺えます。

年代別にみると、中学校・高校と年代を追うごとに不適切な使用によりトラブルを抱える傾向が顕著になり、高校では養護教諭の52.1%が「交換期間・時間を超えた装用」、51.3%が「2週間使い捨てレンズなどの不十分なケア」、44.2%が「眼科で検査を受けずに購入すること」を、トラブルの原因として捉えています。

■ **“正しい知識”を持てば、コンタクトレンズ装用に約9割が賛成【グラフ3】**

児童・生徒の眼の健康を守るためには、早い時期から、CLに関する正しい知識の啓発に取り組む必要があることが伺えますが、実際に養護教諭に聞いたところ、そのほとんど(99.9%)が「最初のCL装用時に“正しい知識”を持つことが重要だ」と考えており、90.9%は“正しい知識”を持てば、CLを使うことに賛成だと答えています。

■ カラーコンタクトレンズユーザーの増加 — 学校保健現場の6割が直面、高校では8割超【グラフ4】

昨今、若年層のカラーCL ユーザーが増加していることを受け、学校保健の現場における実態を聞いたところ、養護教諭の 61.2%が「カラーCL を装着している生徒が増えている」と感じていることが分かりました。年代別にみると小学校では 48.9%、中学校では 44.9%、高校では実に 84.9%の養護教諭がカラーCL ユーザーの増加を感じているという結果に。そこで、CL 使用者の何割がカラーCL ユーザーだと思うかを聞いたところ、高校では平均で4人に1人(2.5割)という結果になりました。

エリア別にみると、特に関東や近畿など大都市圏で“カラーCL 装着”の増加を感じる傾向が強く、トップの近畿では73.4%と、全国(61.2%)を12.2ポイント上回っています。

特に大都市圏の学校保健現場において、多くの養護教諭がカラーCL 装着“低年齢化”の問題に直面している実態が伺えます。

■ カラーコンタクトレンズのトラブルは — 9割が「安易な使用が原因」と回答【グラフ5】

カラーCL のトラブルの原因について聞いたところ、養護教諭の 90.0%が「安易な使用がトラブルの原因になっているケースが多い」と答えています。年代別にみると、小学校で最も多く 97.6%に及んでおり、カラーCL によるトラブルへの危機意識が、小学校の学校保健現場にまで及んでいることが伺えます。また、養護教諭のほとんど(99.6%)が「カラーCL について養護教諭としてもきちんと理解したい」と答えています。

また、フリーアンサーでCLに関する意見を聞いたところ、「CL 装着が増えている。教職員が正しい知識を持ち、個別指導を行いたい(小学校)」、「カラーCL 以前に、多くの生徒がそもそもCLの扱い方を知らない現状に、大きな危機感を抱いている(高校)」など、多数の声が寄せられました。多様化する若年層のCL 装着者と日々向き合っている学校保健の現場で、児童・生徒の眼の健康を守るために奮闘する養護教諭の姿が浮かび上がりました。また、「正しい知識を保護者にも持たせることの必要性を感じる(中学校)」など、児童・生徒本人だけでなく保護者に対する啓発の必要性を訴えるコメントも寄せられています。

宇津見眼科医院 院長 宇津見義一先生は、今回の結果を踏まえ以下のようにコメントされています。

昨今、CLの装着開始年齢の低年齢化が進んでおり、10代の装着者人口は200万人を超えています。小学生でCL 装着を希望するケースも少なくありません。

CL は大切な眼に直接つけて使用するものですので、眼科医の検査・処方を受けて、適切な使用方法を知ることが大切です。特に若年層では、本人だけでなく保護者も正しい知識を持ち、CL 装着を管理・指導していくことも重要になってきます。

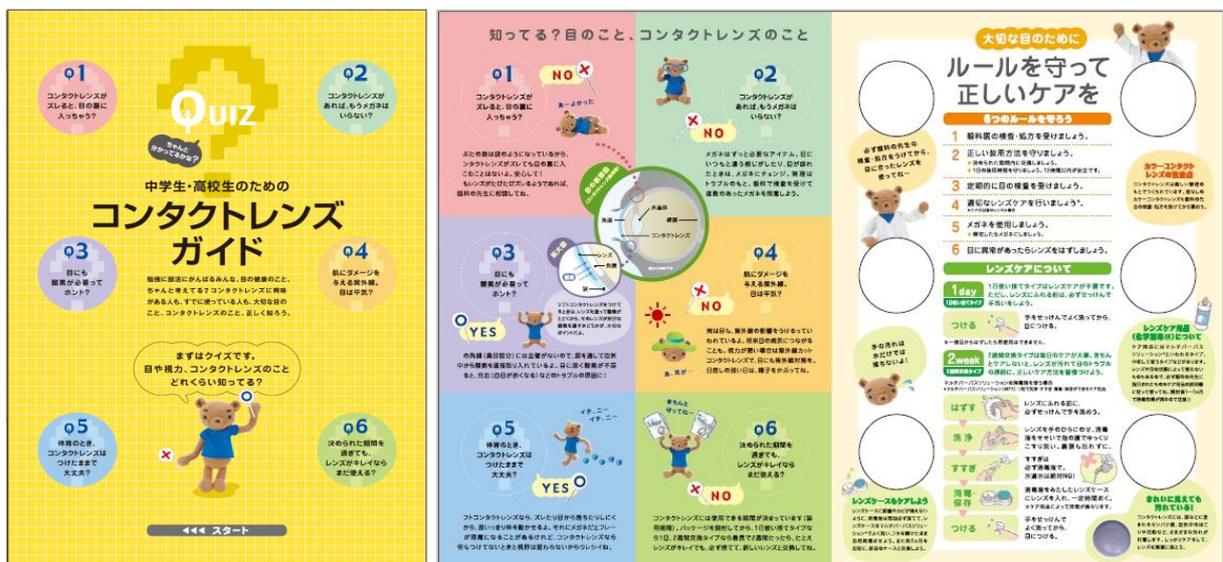
CL 装着にあたっては、“眼科医の検査・処方を受ける”、“決められた装着方法(装着時間、装着期間)を守る”、“定期検査を受ける”、“適切なレンズケアをおこなう”など、ルールを守って正しく使いましょう。

児童・生徒の眼の健康を守るために、CL の正しい使用について、継続して学校での指導、啓発活動を実施していましたが、今後、今迄以上に、学校で、そして家庭でも積極的な指導や啓発活動が重要だと感じています。

特にカラーCL は、おしゃれ目的で若い女性を中心に人気を集め、学校現場でも使用者が増加していますが、大人でも眼障害が増加しているなか、自己責任のとれない子どもたちにはカラーCL 使用はすすめられません。カラーCL の使用目的は美容であり、学校現場では美容は不要です。学校現場においても、眼科学校医、学校関係者によるカラーCL の健康教育、啓発活動を積極的に実施する必要があると考えます。

■「中学生・高校生のためのコンタクトレンズガイド」概要

- 対象 : 中学生、高校生、その保護者
※中学生・高校生向けのページと、保護者向けの解説ページがあります
- 内容 : ・コンタクトレンズクイズ
・正しいケアでレンズを清潔に
・保護者の方へ 適切な視力補正について考えてみませんか？
・ソフトコンタクトレンズ Q&A
- 監修 : 公益財団法人 日本学校保健会
公益社団法人 日本眼科医会 常任理事 宇津見義一先生
- 配布部数 : 63万部(2013年9月現在)
※全国の中学校・高校の養護教諭を通して配布しています
※PDF版は、学校保健ポータルサイトをご覧ください
<http://www.gakkohoken.jp/modules/bulletin4/index.php?page=article&storyid=13>



<ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーについて>

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニーは、1991年に世界初の使い捨てコンタクトレンズ「アキュビュー」を日本に導入して以来、常に使い捨てコンタクトレンズ市場をリードし続けてきました。現在、様々なユーザーのニーズにお応えするため、12種類のタイプの異なる使い捨てコンタクトレンズをラインアップしています。

※この情報は発表時点での情報です。

— お問い合わせ先 —

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケア カンパニー
パブリック リレーションズ 松本、眞野、大林
TEL: 03-4411-6356 FAX: 03-4411-7186

<広報代行> 株式会社サニーサイドアップ 山口、圓城寺(えんじょうじ)、中川
TEL: 03-6894-3200 FAX: 03-5413-3050 E-mail: jni@ssu.co.jp

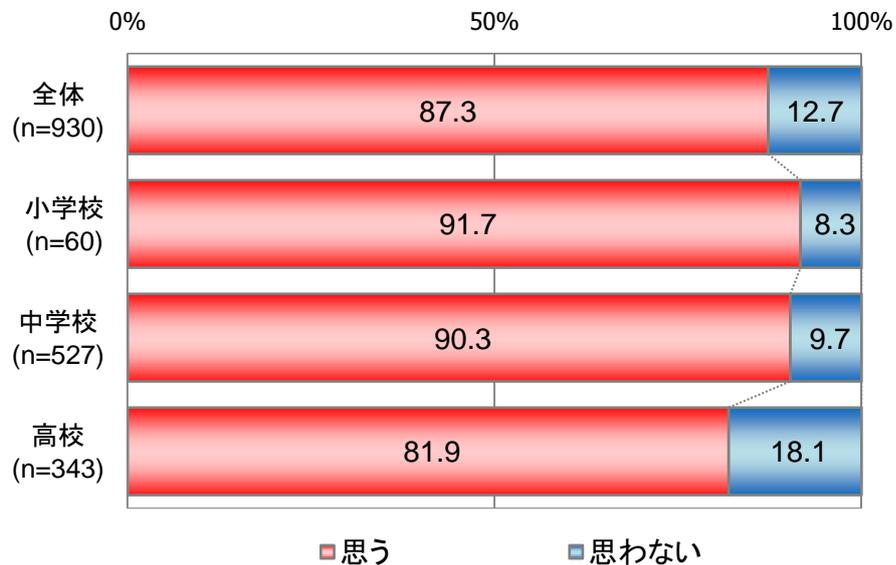
【参考資料】 養護教諭へのアンケート結果

■調査概要

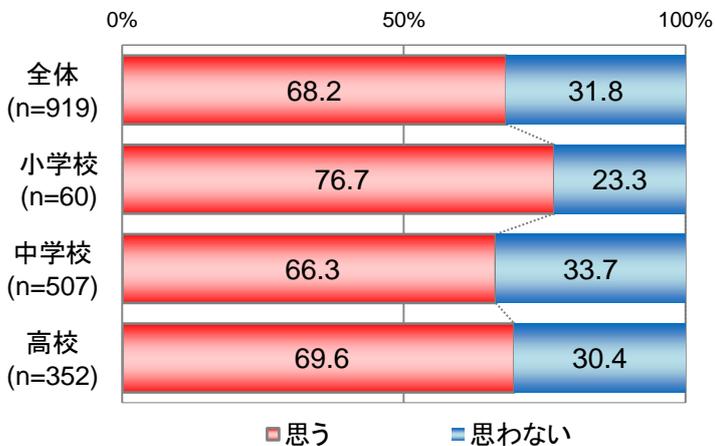
回答方法	「中学生・高校生のためのコンタクトレンズガイド」申込時の記入式による調査
回答者数	1018名 ≪内訳≫ 小学校・中学校・高校 990名、その他(教育委員会、特別支援学校、他)28名
回答者の学校種別	・小学校(小中一貫校、小中高一貫校 含む) ・中学校 ・高校(定時制、高等専門学校、中高一貫校 含む)
回答期間	2013年5月～7月

【グラフ1】

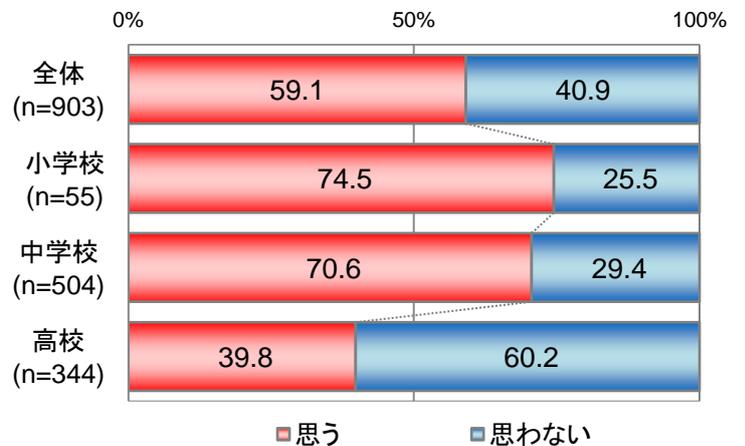
Q:コンタクトレンズ装用者の低年齢化が進んでいると思いますか？(%)



Q:コンタクトレンズを装用している女子は“メガネの見た目”にこだわっていると思いますか？(%)

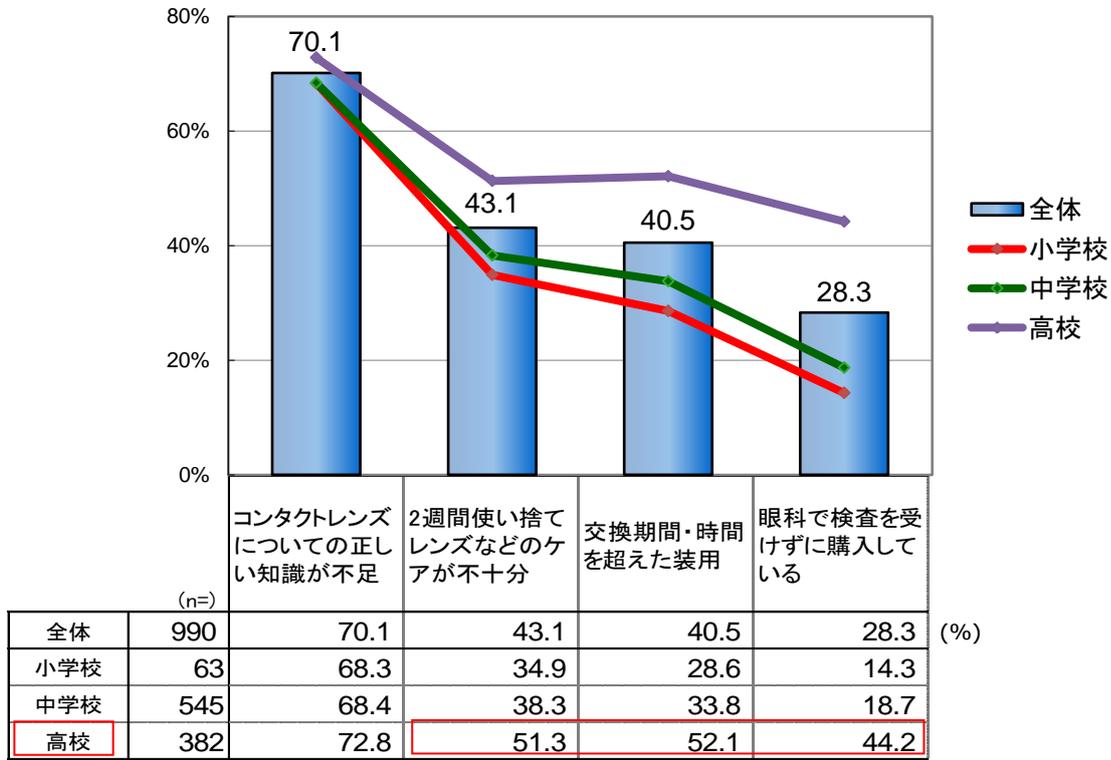


Q:コンタクトレンズを装用している男子は“スポーツ”が主な理由で装用していると思いますか？(%)



【グラフ 2】

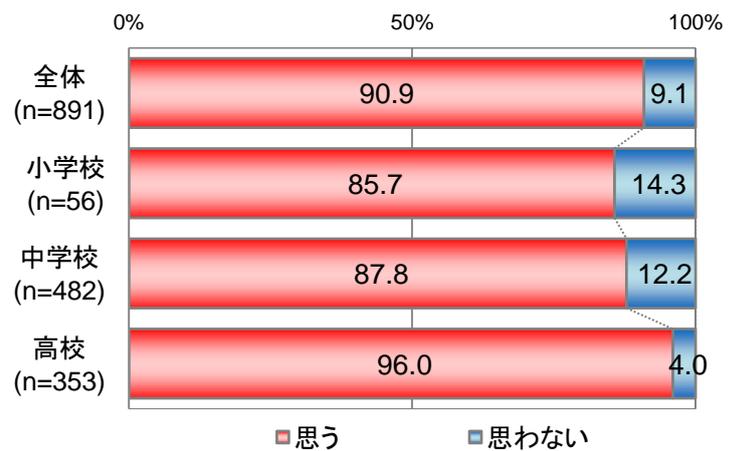
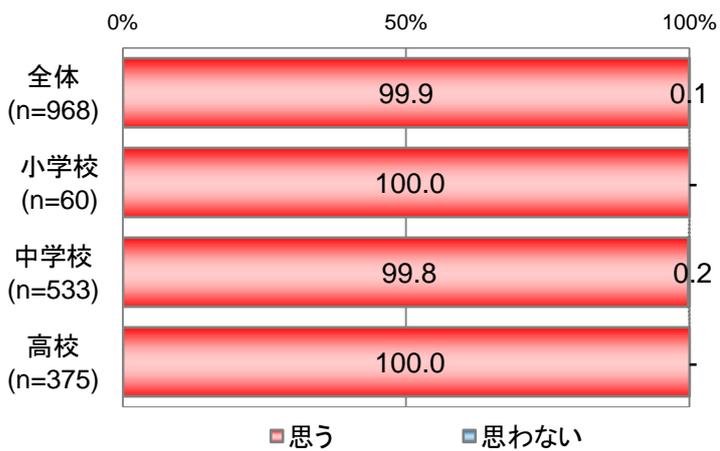
Q:コンタクトレンズのトラブルの原因についてどのようにお考えですか？(%)



【グラフ 3】

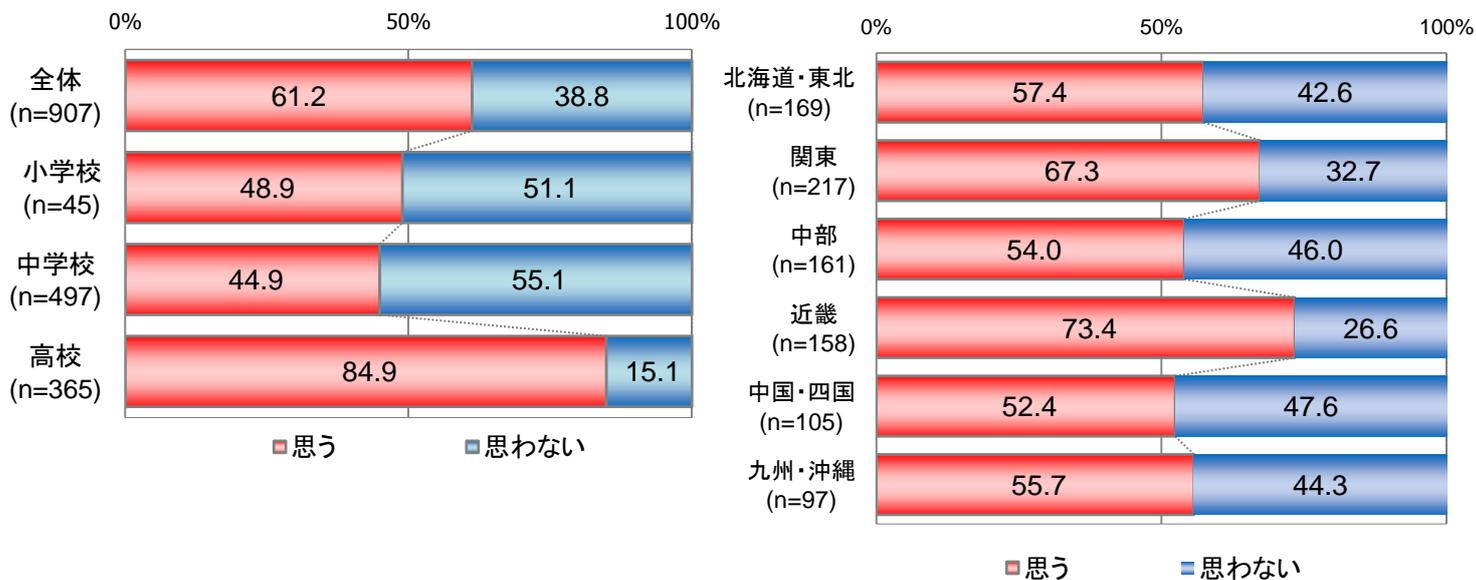
Q:最初のコンタクトレンズ装用時に“正しい知識”を持つことが重要だと思いますか？(%)

Q:“正しい知識”を持てば、コンタクトレンズを使うことには賛成ですか？(%)



【グラフ 4】

Q: カラーコンタクトレンズを装着している生徒が増えていると思いますか？ (%)



【グラフ 5】

Q: カラーコンタクトレンズの安易な使用がトラブルの原因になっているケースが多いと思いますか？ (%)

Q: カラーコンタクトレンズについて、養護教諭としてもきちんと理解したいと思いませんか？ (%)

